

1 心筋梗塞とは

心臓の筋肉に血液を送る冠状動脈が詰まってしまい心臓の筋肉が死んでしまう病気です。



循環器科 医師 平林高之

2 心筋梗塞の原因

冠状動脈が動脈硬化により痛んだ血管に血栓が生じ血管が閉塞することにより起こります。血流が途絶えることで心筋は壊死し心臓に大きな障害が残り、死亡することもある恐ろしい病気です。

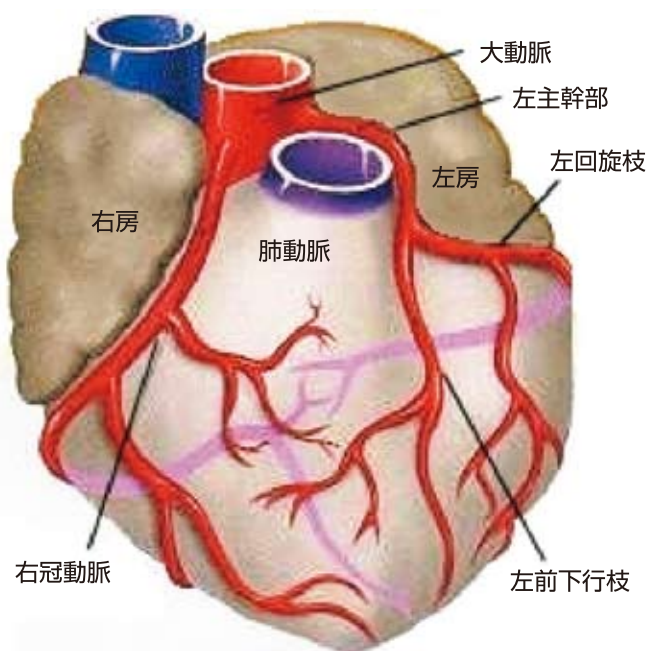
3 心筋梗塞の症状

急に強い胸の痛みを感じます。痛みを感じる場所

胸の中央部が一番多いですが、左胸部、左肩、首、下あご、みぞおちを感じることもあり、腕や背中に痛みがひびくことがあります。ときどき腹痛を感じることもあります。

痛みの性質

絞めつけられる、抑えられる、圧迫される、しぼられるような痛みです。胸やけ、肩こり、歯の痛みとして感じることもあります。しばしば冷や汗を伴います。患者さんは「普通ではない痛み」と感じるようです。なお、ちくちくする痛み、刺さるような鋭い痛み、



深呼吸で増強する痛み、指で示せる範囲の狭い痛みは心筋梗塞の可能性が低い痛みです。

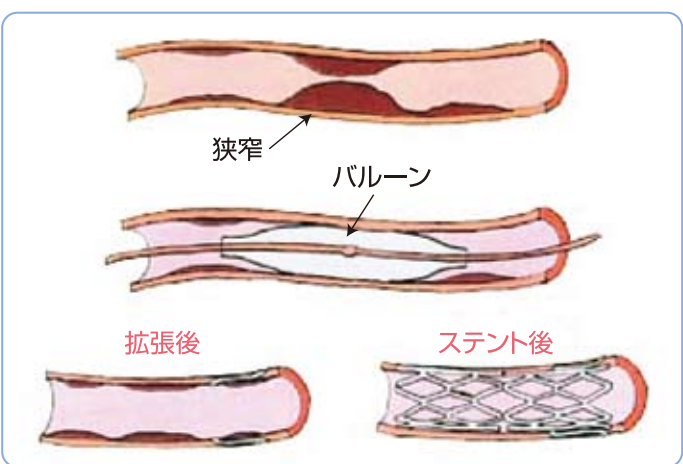
痛みを感じる時間

数十分から数時間持続します。

4 心筋梗塞の前兆

心筋梗塞の前兆がある場合があります。坂道や運動、重いものを持つ、除雪などで前胸部が圧迫されることがある、運動時の胸痛が安静時にも起こるようになって

きた。胸痛の頻度が多くなってきた、胸痛の治まりが悪いなどが心筋梗塞の前兆のことがあります。こんな症状が出た場合にはたとえ胸痛が治まってしまっても専門医の診察を受けてください。

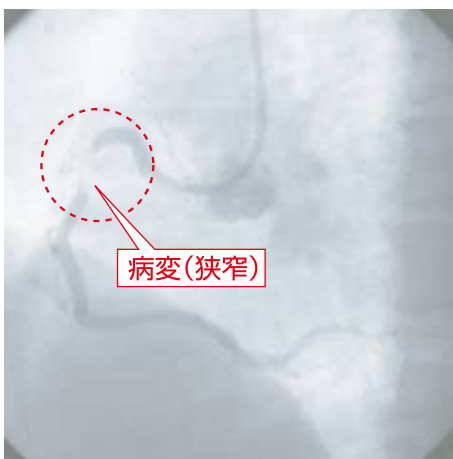


5 心筋梗塞かもしれないと思ったら

すぐに病院にかかってください。胸痛が治まってもそのまませず、夜間、休日でもかまいません。救急外来を受診してください。

6 心筋梗塞になりやすい人

タバコを吸うひと(本数は関係ありません)、糖尿病、高血圧、コレステロールの高いひと、親兄弟に若くして心筋梗塞になった人がいるひと、肥満、などです。男性は女性より心筋梗塞になりやすく、几帳面なひと、ストレスの多いひと



注意です。これらの要因を持つひとは男性では四〇歳をこえたら、女性では閉経した後が要注意です。またこれらの要因は数多く持つほど心筋梗塞になりやすくなります。

7 心筋梗塞の診断

症状と病歴から診断します。心電図検査や血液検査、心エコー検査をあわせて行います。心筋梗塞が疑われた場合、冠動脈造影検査をして詰まっている血管の場所を特定し治療を行います。

8 心筋梗塞の治療

自宅・職場など病院以外の場所で胸を苦しめたり、突然倒れた

人をみた場合。

まず意識呼吸をしているか確認します。救急隊を呼びます。AED(自動除細動器)を持つてくるように頼んでください。呼びかけにこたえず、ぐったりしていたら心臓マッサージと人工呼吸をしてください。救急隊が来るまで続けます。

意識があっても救急車を呼んで病院に一刻も早く来ててください。

病院での治療

酸素吸入、点滴、鎮痛剤による胸痛の緩和、ニトログリセリン(血管をひろげる薬)の舌下、アスピリン(血液をサラサラにする薬)内服します。

救急室から血管造影室に移り冠動脈造影を行います。血管に詰まった部位に対してステント治療を行います。

術後、不整脈や心不全の治療を行います。多くの患者さんは1週間程度で退院できますが重症度により長期間の入院が必要になる場合があります。入院後も

心臓破裂、不整脈、心不全で急変することがあり厳重な監視が必要で

9 心筋梗塞後の管理

禁煙、減量などの生活習慣の改善が大切です。特に喫煙は再発作の誘引となります。本数、ニコチン量は関係ありません。服薬の指示をまもりましょう。再発予防のため服薬は生涯続けてもらいます。定期的な診察を受けます。ステント治療をした場合には6ヶ月後に冠動脈造影を行います。再発を防ぐには、禁煙・高血圧治療の継続・病院での血圧で一二〇/八〇mmHg未満・糖尿病のコントロールをよくしておく・悪玉コレステロール(LDLコレステロール)を二〇〇mg/dl未満にする。適度な運動や肥満の改善が必要です。

心筋梗塞にならないように気をつけましょう。心筋梗塞かなと思ったらすぐに病院に来てください。